

令和8年度島根県立大学人間文化学部
学校推薦型・総合型選抜 社会人・学士 帰国生 私費外国人留学生特別選抜
保育教育学科 小論文問題 出題意図

2025年11月実施

出題の意図

本問題は、田中康雄『「発達障害」だけで子どもを見ないで その子の「不可解」を理解する』（SB新書、2019年）の一部より採用した（一部改変）。

本書は、発達障害のある子どものよりよい育ちに向けたサポートの在り方を、保護者、医療関係者、保育者及び教育者の立場から多面的に論じたものである。本書では、発達障害という診断名はあくまでもその子の一部にしかすぎず、その子の目線に立って、気持ちや困っている理由を想像し、「仮の理解」を行う過程の重要性を主張している。保育者・教育者を目指すものとして、子どもの気持ちや困り感を想像する力、よりよい保育・教育的行動を判断・決定する力について受験生に問いたい。

この出題を通じて専門的な視点で内容を読み取り、本題が伝えたい論点を読解・分析する力（読解力、分析力）、また自身の知識や経験に基づき、自分の考えを分かりやすく表現する力（論理的思考力、表現力）、最後に保育者・教育者になる上での態度・姿勢に関する捉え方（保育者・教育者としての価値観、資質）といった観点から、受験生が保育教育学科を志望する者としてアドミッションポリシーである思考力・判断力・表現力を有しているかを評価する。

採点観点

- 1) 問題文を的確に読み取って分析し、自分の視点による考察を知識や経験に基づいて提示しているか（設問との対応、視点、自分の考え）
- 2) 結論とその論拠を、論理的かつ説得力をもって展開しているか（論理化、展開、結論付け）
- 3) 正しく適切な語彙・表記により、分かりやすい表現ができているか（語彙力、表現力）